



二第34号二

平成27年(2015年)1月発行

富士宮国際姉妹都市協会

富士宮市弓沢町150番地

富士宮市市民生活課内 ☎ 0544 (22) 1486



交換学生・ホストファミリーとともに須藤富士宮市長を表敬訪問(平成26年7月25日)

二〇一四年を振り返って

会長 九 川 幹



ければなりません。

そして七月にはジョン・アダムス・ミドルスクール(JAMS)から中学生十三名、保護者ら五名が来宮しました。

JAMSとの交流も今回で三年目となりました。サンタモニカ市の若者が積極的に訪問してくれることはとてもうれしく、また誇らしく感じます。

交換学生事業では、積極的な応募があり、四名の学生を派遣しました。英語漬けの日々は苦労もあつたようですが、様々な経験を積み、大きく成長できたようです。

会長に就任して二年となります。歴代会長、役員、会員の皆様方の協力によりなんとかここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。

さて、本年度は、交換学生事業、市民交流事業ともに、たいへん充実したものでなりました。

市民交流事業では、まず四月にサンタモニカ市のパム・オコナー市長が八年ぶりに、ダイアン・デュボイス市長(ロサンゼルス郡レイクウッド市)とともに来宮されました。

お二人は世界遺産である富士山の環境保護に深い関心を寄せてくださいました。富士山の素晴らしさ、大切さを、当協会もさらに伝えていかな

今年二〇一五年は姉妹都市提携四十周年となります。記念事業は八月を予定しております。大勢のお客様をお招きしてのイベントとなりますので、精一杯のおもてなしでお迎える所存です。この大きな事業の成功には、皆様のご支援が不可欠です。引き続きご指導、ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願いたします。

人とつながって成長する

富士宮東高等学校三年 大村ゆり子

私ははじめこのプログラムに応募しようか迷っていましたが、担任の先生の一押しで応募を決意しました。サンタモニカの交換学生が来る日が

近づいてくると、緊張とワクワクがこみあげてきました。私の家に来たのは、私と同じ高校三年の男の子、ガリソンでした。英語で何を質問しようか考えていると、日本語で話しかけてきてくれました。とても優しく話しやすい子で、テレビを見ながら、警察についてなど、日本とアメリカを比較して話してくれました。行動力もある子で、一緒に東高へ行ったとき、私の友達にも積極的に話しかけ、多くの写真を撮っていました。

ロサンゼルス空港で大歓迎

彼は日本滞在中、朝食はご飯とみそ汁でした。他にも日本食にどんどんとチャレンジして、とんかつが



ガリソンのお母さんのアンドレアさん、ガリソン、ジュリア、夏実ちゃんと

いて驚きました。HOLLYWOODでおいしいメキシコ料理を食べました。私の家族はボリビア出身なので、サンタモニカで南米文化に触れることができて嬉しかったです。

一番気に入ったようでした。また、スポーツカーが好きなそのなので、御殿場のモーターショーに連れて行きました。「本当に楽しかった」と言っていたのでホッとしました。そしていよいよアメリカに行く当日となり、家族に別れを告げ出発しました。LAX空港でホストファミリーが温かく出迎えてくれました。初対面の私にも気さくに話しかけてくれ、不安は吹き飛びました。

サンタモニカも日中の気温は高いのですが、暑さは全く感じず、日本とは違う夏でした。また、南米系のスペイン語を話す人々が多く住んで

と笑顔で、元気をもらいました。よく移動の車中でお母さんとたくさん話しました。着いたばかりのときは単語がやっと聞き取れただけでしたが、次第に相槌を打ち、質問に感じられるようになりました。英語の構文を必死で思い出しながら話しました。また、サンタモニカ姉妹都市協会の皆さんが開いてくれたバーベキューでは、アメリカでの経験を英語で話しました。ガリソンの友達ともたくさん遊びました。

アメリカでの二週間はあっという間で、ずっとここにいたいと思えました。空港での別れの際、皆で過ごした楽しい時間が思い起こされ、涙が



止まらなくなりました。ガリソンのお母さんに「いつでも戻ってきてね。」と言われ、もう一つの家族がいるのだと感じました。

今度サンタモニカに戻るまでには、流暢に英語を話せるようになり、同じメンバーで語り合いたいです。人と人とのつながりを強く感じられた二週間であり、この思い出は生涯の宝物です。この経験を将来に生かせるよう、今後とも何事にも頑張ろうと思えます。このプログラムを企画してくださった関係者の皆様、両親、学校の先生方、そして関わってくれたすべてのの方々に本当に感謝しています。

貴重な体験、素晴らしい出会い

富士高等学校一年 伊藤 夏実

私は、毎日ホストマザーと一緒に朝早く起きて、ペットのチエイスの散歩と、十キロのランニングをしました。土曜日には、近所の人たちに加わり二十キロ走りました。陸上競技部である私は、ホストマザーが運動好きで、「一緒に走れる仲間ができて嬉し

い。」と言ってくれ、嬉しかったです。走りながらサンタモニカやその周辺の地域の様々な景色を見ることができました。街並みはきれいに整備されており、道路の両側や真ん中に芝生や背の高いヤシの木がありました。その両側に並ぶたく



ホストマザーや近所の方々と毎朝走りました

さんの家々もとても素敵でした。中でもビーチは絶景で、とても輝いていて何枚も写真を撮りました。サンタモニカではたたくさんの人が散歩をしていて、挨拶をしたり、話しかけてくれたりしま



よくガリソンの自宅に集まり、いろんな話をしました。写真左がドイツから来たアレクサンダー（アレックス）です。

した。日本では、知らない人にあっても通りすぎるだけで、ホストマザーは初めて会った人にも自己紹介をして、仲良くなっていました。また、ホストマザーは、知り合いの人に必ず私を紹介してくれました。チエイスの散歩をしているときも、ホストマザーはずっと話しかけてくれました。

車の博物館などたくさんさんの博物館に連れて行ってもらい、いつもガリソンが展示を説明してくれました。他の交換学生の自宅でパーティーをしたり、その友達の家で遊んだりもしました。みんなで集まると、いつも話が尽きませんでした。ドイツ人の学生のアレクサンダーともよく一緒に過ごしました。積極的に話に参加し英語力を伸ばそうと

せながら何かを投げかけている人を不思議に思っていると、ホストマザーが「新聞配達をしているんだよ」と教えてくれました。



もあり必要最低限しか話せていなかった私は、「このままじゃ駄目だ、間違えてもいいからとにかく話してみよう」と思い、その後はチエイスの散歩中に話しかけたり、同世代の友達との会話に加わったり、積極的に話すようになりました。もっと英語を勉強して、交換生プログラムを通して出会った方々と、たくさん英語でお喋りできるようにになりたいです。このプログラムでの素敵な出会いは、私の一生の宝物です。これからも連絡を取り合って、大人になったらまたみんなで集まりたいです。

アメリカの良さ、日本の良さ

静岡雙葉高等学校一年 九川 真衣



アラナの自宅玄関に飾られたウェルカム・ボード。お母さんのお手製です。



シェパード家のお母さんとお父さん

私は日本を出発する前に二つの目標を立てました。多くの人と積極的にコミュニケーションをとり、もっとスムーズに会話を図れるようになること、そして明るく社交的なアメリカ人の良さを吸収することです。必ず実りある二週間にしよと心に決めました。

私の英会話の先生はロサンゼルス出身で、アメリカ出発前にアメリカについて話してくれました。「パソコンやスマートフォンなどの素晴らしい発明をしたのは皆アメリカ

人だ。それは、アメリカ人が自由な発想や想像力を持っているからだ。マイがアメリカに行ったら、ぜひその自由かつ開放的な雰囲気を感じ取ってほしい。」私は、アラナの高校などいろいろな場面でそうした雰囲気を感じることができました。

学校では、持ち物や服装などルールがないのに加え、高1でもとる授業を自分で決められます。そして先輩後輩、男女の垣根がなく、生徒がのびのびと生活しているように

感じました。そんなところにも日本にはない自由さを感じました。

そのラフさゆえに少しびっくりしてしまったこともありましたが、物事には良い面とよくない面があり、両面を見ることが大事だと再認識しました。日本は街並みも人間もアメリカに比べれば地味です。しかし「わびさび」のすばらしさ、日本人の誠実さや礼儀の良さは世界にも認められています。どの文化が良い悪いということは一概にいうことはできないし、理解できない、受け入れられない文化があるのは仕方ありません。でも、置かれた環境を受け入れ、最大限楽しむことが、海

外での生活を充実させる秘訣だと思いました。

ホストファミリーは本当に親切にしてくれました。特に夕食は家族の温かさ、優しさを感じた幸せなひとときでした。いくら文化が違ってても、「家族」というのは安らぎの場所であるというのに変わりはないので思い感動しました。

アラナは、富士宮に滞在している間、気候の違いと時差ボケのせいか、はじめは食欲も無くぐったりしていました。少し退屈している様子でもありました。私は宿題に追われ、アラナに付きつきりとはいかず、申し訳ない気持ちでした。

仕事があり忙しい中でも家族は最大限協力してくれました。アラナに日本食を知ってもらおうと、毎日色々な料理を用意し、また観光に連れて行ってくれました。ホームステイを受け入れて一番大変なのは親なのに、私のために快く引き受けてくれたことに感謝しています。祖父母や友達も気遣ってくれ、いかに自分

が周りの人々に支えられて生きているか実感しました。そして何より、この姉妹都市交換学生プログラムで約一か月一緒にすごした仲間は大切な存在です。言葉の壁など存在しないかのように皆打ち解けました。別れの時はもう何年も知っている人のように思えて、とても辛かったです。何年後かに、お互い成長した姿で再会できる日を信じて、自分の夢に向かって頑張ろうと思います。



「安良奈」と当て字して練習

最後に、このような機会を設けてくださった市長をはじめとする市役所の方々、姉妹都市協会の方々に深く御礼申し上げます。そして、今後もサンタモニカとの交流が長く続くことを願っています。

思いやり、積極性、個性と度胸

富士宮北高等学校二年 横山 友海



ホストシスターのベラと

私たちが家族はベラを受け入れました。ベラの事は、適応力が高い、親切、親しみやすい性格と聞いていましたが、本当にその通りで、加えて元氣いっぱいな子でした。

ベラが富士宮に到着し、私の家に向かう間、アメリカではほとんどの車が左ハンドルで、信号機が縦長なのだと説明してくれました。ベラは日本の雰囲気を楽しんでいました。家族で白糸の滝など観光に行ったり、カラオケに行ったりしました。ベラは歌がとも上手で驚きました。



八月四日にロサンゼルスへと旅立ちました。飛行機の中で初めて雲の上から私たちが住む町を見ました。とても小さく見えました。

ロサンゼルス空港では、ベラの父ケンと、母のナンシーも待っていてくれました。ベラの家に着くと、「ようこそー!」と書かれた紙と、たくさんのお菓子がありません。今日からここで、この

温かいホストファミリーと暮らせるんだ」と、わくわくしました。ナンシーは日本語に興味があり、お互いに教えあうことができました。

ベラは私をいろいろなところに連れて行ってくれました。ベラの学校に行った時に、私は外国人だから不審がられるのではと心配していましたが、誰も私を警戒せず、温かく声をかけてくれました。外国人が日本に行く时必须注目されます。アメリカの人たちは大人だなと思いました。

アメリカ人の協調性や思いやりにも感動しました。ベラとその友達のエンバとディズニールランドに連れて行ってもらう、アトラクションで順番待ちをしていると、係の人が「二名様でお待ちの方はいますか?」と言います。並んだ人たちが伝言ゲームのように伝え合いました。日本では大半の人が受け流すでしょう。

また、挨拶を欠かさ

ず、周りによく気が付き、親切な人が多く、何度も助けられました。ベラも、出かけたあと必ず「楽しい?」「嬉しい?」と聞いてくれたり、私の表情が曇っている時は、「笑って」と声をかけてくれたりしました。同じようにベラに声をかけてあげられず後悔しています。

アメリカ人の積極性や、堂々と胸を張って生活していることも尊敬できます。日本は集

行行動型で、目立ちすぎると浮いてしまいますが、アメリカ人は人前で歌ったり、体形を気にせず露出した服を着たりしています。アメリカでの生活で、自分をさらけ出すこと、他人を思いやり気遣うことの大切さを学び、自分に足りない部分を反省しました。

何よりうれしかったのは、アメリカに自分の居場所ができたことです。別れ際に「来てくれてありがとう」、「あなたが大好き」と言われ涙が

出ました。ホストファミリーのケンは今度は家族でおいで。一緒にロックンロールしよう!」と言ってくれました。

アメリカは第二の故郷です。そう思えるのはこの事業のおかげです。関係者の皆様、両親、ホストファミリーには感謝してもしきれません。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。この夏に得たことを決して忘れず、これから生かしていきたいと思います。



ロサンゼルス空港でお別れ。また会おうね!

平成26年度交換学生事業サンタモニカ市交換学生

アンケート結果

- ①日本で体験したことのなかで楽しかったことは何ですか？
 ②国際姉妹都市協会の皆さんへ

ガリソン・フィンリー

- ①ホームステイを通して社会の構造、常識など日本について学び、自分はまだまだ知らないことばかりだと気づかされた。ホストファミリーは親切でよく助けてくれた。言語の壁があったが、一生懸命コミュニケーションをとってくれた。そしてなんといっても食べ物がよかった。さまざまな日本食に挑戦した。また、アメリカとの大きな違いを観察できてよかった。日本の丘陵や街なかの裏通りに神秘と美を感じた。
- ②この交換学生事業のためにご尽力いただきありがとうございます。10代の若者が日本の文化に触れることができる貴重な機会ですので、これからもこの事業を続けてくださることを願っています。日本文化はサンタモニカ市、ひいてはアメリカにとってよいお手本だと思います。

ベラ・ブラウニング

- ①ホストファミリーと仲良くなったので、これからも連絡を取り合いたい。また日本語をたくさん勉強できて嬉しかった。東京観光も楽しかった。日本滞在中の一瞬一瞬、何もかもが良かった。
- ②どうもありがとうございました。富士宮市で初めて見た富士山の美しさを、私は一生忘れないと思います。富士宮市に帰りたいです！とても綺麗な市です。

アラナ・シェパード

- ①私のホストファミリーはとてもフレンドリーで、私を温かく迎えてくれた。私のためにいろんな配慮をしてくれた。また富士登山や東京観光にも連れて行ってもらい、とても楽しかった。
- ②私たち交換学生のためにいろんな準備してくださって、友好的に接して下さったので、とてもすごしやすかったです。ありがとうございました。

ジュリア・メニーハート

- ①ホストファミリーはとても親切で一緒にいて楽しかった。家族の一員として接してもらえた。日本の伝統を体験できたのもうれしかった。日本の食事や環境も大好きになった。未知の文化に触れ、知らない環境に放り込まれることで、自分自身が良い方向に変化できたと感じている。機会があればまた日本にきたい。
- ②この交換学生事業に参加させていただきありがとうございます。12日間とても楽しかったです。ホストシスターの伊藤夏実さんにカリフォルニアでの生活を見せられることをとても楽しみにしています。



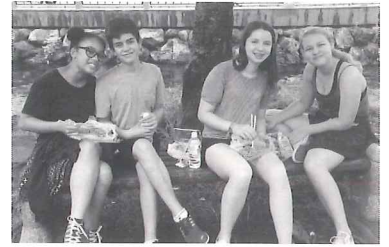
初めての蕎麦打ち体験！真剣そのものです。

ライオンズクラブ合同例会にて。交換学生事業をご支援くださる皆様に直接お礼を伝えることができました。



サンタモニカの中学生、富士宮の夏を満喫

恒例となりましたジョン・アダムス・ミドルスクール(JAMS)の訪問団が、東京や箱根、京都を訪れた後、旅の締めくくりに来宮しました。富士宮市を好きになってくれたようです。「高校生になったら交換学生になりたい」と目を輝かせていた子もいました。また来てくださいね！



7月14日(月)

12時31分 新富士駅着



富士山本宮浅間大社

| ふれあい広場で昼食

| 拝殿でご祈祷

| 境内を散策



外神東公園



富士宮市長表敬訪問



18時9分 新富士駅発



お互いを受け入れる ことの大切さ

ジョン・アダムス・ミドルスクール
8年生 アマング・ウエルザー
8年生 オリビア・チュウ

富士宮市の皆様が新富士駅で温かく迎えてくれました。まず富士山本宮浅間大社に案内され、神田川を眺めながら富士宮やきそばとお団子をごちそうになりました。おいしかったです。

昼食後はご祈祷を受けました。噴火を鎮めるため、富士山を人格化して麓で祀ったことなど、浅間大社や富士山信仰の歴史を教わりました。

外神東公園では、サンタモニカの小径にピア・サインのレプリカが建っていて驚きました。富士宮市は姉妹都市提携をとても大切にしてくれているですね。

夕方には市役所で須藤市長や富士宮国際姉妹都市協会の皆様とたくさんお話し、記念品を交換しました。両市の強い絆を再確認できました。

富士宮市と姉妹都市で、とても誇らしいです。文化が違って、お互いを理解し受け入れることが大切です。私たちの友情がこれからも続きますように！

パム・オコナー市長と 8年ぶりの再会

サンタモニカ市のパム・オコナー市長(写真前列左)が8年ぶりに富士宮市を訪問されました。ロサンジェルス・メトロ(都市圏交通局)理事会でのご同僚であるダイアン・デュボイス市長(レイクウッド市、前列右)も同行されました。お二人と歓迎夕食会、市役所表敬訪問、市内観光を行いました。

4月6日(日)

14時22分 富士宮駅着



富士山本宮浅間大社



歓迎夕食会

4月7日(月)

市役所訪問



市内観光



昼食



15時9分 新富士駅発

オコナー市長の メッセージ

先日、友人のダイアン・デュボイスと私が富士宮市を訪問しました際、皆様から大変なおもてなしを受けました。感謝申し上げます。

桜が満開の時期の富士山は神秘的ですね。富士山本宮浅間大社や白糸の滝も見て、楽しく過ごすことができました。夕食会や市役所訪問ではお互いの活動を語り合いましたね。

新しい出会いに恵まれ、これまでの友情も深まり、大変

充実した滞在となりました。両市の絆を強めようとたゆまずご尽力される富士宮市の皆様をここに称えます。皆様のご健勝をお祈りします。





平成26(2014)年度に行われた事業



●総会の開催

日程：平成26年5月14日(水) 会場：富士宮駅前交流センターきらら 集会室

●市民交流事業の実施

★パム・オコナー市長 表敬訪問

日程：4月6日(日)～7日(月)1泊2日

歓迎夕食会、市庁舎表敬訪問、市内観光

★ジョン・アダムス・ミドルスクール訪問団受入

日程：7月14日(月)

参加者：18人(学校職員、保護者4人、学生13人)

●交換学生事業の実施

サンタモニカ市交換学生(7/23～8/4滞在)			富士宮市交換学生(8/4～8/19派遣)		
ガリソン・フィンリー	18歳	サンタモニカ高12年	大村ゆり子	富士宮東高3年	
ジュリア・メニーハート	15歳	サンタモニカ高12年	伊藤 夏実	富士高1年	
アラナ・シェパード	15歳	サンタモニカ高10年	九川 真衣	静岡雙葉高1年	
イザベラ・ブラウニング	16歳	カルヴァーシティ高11年	横山 友海	富士宮北高2年	

●会報『友情』第34号の発行

●富士宮市国際交流協会(FAIR)20周年記念事業への参加

日程：平成27年1月25日(日)

会場：富士宮市民文化会館



平成27(2015)年度総会のお知らせ



日程：5月13日(水) 午後2時～

会場：富士宮駅前交流センターきらら



平成27(2015)年度の主な事業予定



●40周年記念事業 8月12日(水) 記念式典

8月14日(金)～16日(日) サンタモニカ市少女サッカーチーム 富士山カップ参加

●交換学生事業 派遣：7月25日(土)～8月6日(木)

受入：8月6日(木)～8月17日(月)

●市民交流事業

編集後記

望月 達也

本年度は、春にサンタモニカ市長がレイクウッド市長と一緒に来宮してくださいました。私も歓迎会に参加させていただきましたが、意欲的なお二人から、米国の力強さが伝わってきました。また、交換学生事業も順調に進み、受入・派遣期間がそれぞれ約二週間と短くなりましたが、未来ある若者が日本と米国を行き来することができました。市民の皆様方のご理解とご協力に感謝いたします。

さて、今年は姉妹都市提携四十周年です。四十年の間に時代も国際環境も大きく変わり、当協会の存在意義も変わってきていますが、サンタモニカの人たちと異文化交流をすることによって相互理解し、友情を育くむことが当協会の基本です。交流することによって、自分の国に対する理解と愛情を深めることもできると思います。

これからも、市民の皆様を巻き込み、積極的に交流することによって、よりよい友好関係が築ければと考えています。引き続き当協会へのご支援をお願い申し上げます。